

## A 氏邸訪問記(2015.5.18)

### 1. はじめに

前回伺ったのは昨年(2014)の11月で micro iDSD を持参し、A 氏邸のシステムで DSD 再生がどのように鳴るかを聴かせていただきました。今回はその後入手された DSD 音源を聴かせていただき、持参したパワーリベラメンテの A 氏邸のシステムにおける効果を確認させていただくことにしました。同行者は2ヶ月前に拙宅にお越しいただいたお馴染みの S 氏、Y 氏、F 氏です。

### 2. 試聴の経過

A 氏邸のスピーカーは、QUAD、Tannoy Arden、KEF の LS3/5a ですが、今回も上杉のプリアンプとパワーアンプで駆動されている QUAD を聴かせていただきました。これまでの経緯は過去の訪問記を参照してください。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/6e5a0f6fedef1d36b9e5234bd6e6a3bf.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/00348d1955e177f5440630a336febddd.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/289bb490820c1922c8c58fdf9131183c.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/92d3ee5064b773603e782c27b15cdb77.pdf>

A 氏邸は初めての訪問である F 氏もおられましたので、A 氏から PC で作成したシステムのブロックダイアグラムを TV に写しながらの説明があり、それに沿って現状の音を聴かせていただくことになりました。



最初は DAC として MYTEK DIGITAL 192-DSD を使用し、BZT-9000 の BS 録画の再生から始まり、ピアノ曲で FAZIOLI とスタンウェイの演奏を聴かせていただきました。

したが、両者の音の違いが的確に聴き取れました。

次に同じく DAC として MYTEK DIGITAL 192-DSD を使用して PC の HQPlayer により PC のドライブから CD の再生を行いました。HQPlayer で 192KHzPCM と 5.6MHz DSD で送り出したり、また、MYTEK DIGITAL 192-DSD の GPS-777 からの外部クロック入力のあるなしでの音質の変化などをデモしていただきました。

次に DA-3000 による DSD 録音音源をいくつか聴いた後、元音源の由来と録音時の条件などがどのように音質に影響しているか聴き分けてみようということになり、[パワーリベラメンテ導入記\(7\)](#)と[パワーリベラメンテ導入記\(8\)](#)で録音した 5.6MHz

DSD 音源を順次聴いていきました。音源としてはマーラーの交響曲 1 番 4 楽章を選び、①インバル／チェコフィルの CD の EMT981 による再生、②セガン／フィラデルフィアの BS 録画の再生、③インバル／チェコフィルの CD の Plextor Premium 2U からの再生を HQPlayer と micro iDSD による 11.2MHzDSD へのリアルタイム変換の再生、④ラトル／ベルリンフィルの Digital Concert Hall の再生、⑤ジュリーニ／シカゴの EMT XSD-15 と iPhono によるアナログ再生などからの DSD 録音音源です。演奏スタイルやホールの違い、元音源のメディアの違いなどについては各自のコメントがあり、好みを聴くと、③と④に人気が集まり、一部②も良いとの意見がありました。即ち①と③のように元音源が同じ CD でも再生ルートが異なると音が違ってくるということが聴き分けられたということです。

ここでパワーリベラメンテの効果を聴いてみようということになり、持参した KOJO のタップにパワーリベラメンテで給電し、最初は PC のみ、ついで MYTEK DIGITAL 192-DSD の電源を KOJO のタップから取ってみました。直接機器にパワーリベラメンテを繋いだわけではありませんのでパワーリベラメンテの効果は間接的ということになりますが、それでも拙宅と同じように楽器の質感の向上や音場の広がり感が出たように感じました。さらにプリアンプとパワーアンプの結線の見直しを行った後、F 氏持参の CD で F 特のピーク／ディップを調べるスイープを行った結果、重低域の薄さや中高域のピーキーなところが分かり、オーケストラを聴いた時の左右のバランスの崩れの原因でありそうな左右のスピーカーの設置のアンバランスなどが改善の余地として指摘されました。

ここで、お目当ての QUAD の静電容量型スピーカーへの電源ケーブルをパワーリベラメンテに替えてみましたところ、驚くほど様変わりしました。QUAD の静電容量型スピーカーは電源供給が着脱式の電源ケーブルで行っていますので、これをパワーリベラメンテに替えたわけです。音質確認のために持参したバッハの無伴奏パルティータの[千住真理子の CD](#)と[前橋汀子の CD](#)を PC オーディオで聴かせてもらったところ、一同驚くほどのヴァイオリンの弦の質感やボウイングが目に見えるようなパフォーマンスが得られ、これ本当にヴァイオリン？という声も上がるほどでした。すなわち、両者の演奏スタイルの違いや千住真理子のストラディバリウス・デュランティ

と前橋汀子のガルネリ・デル・ジェスの音の違いが如実に聴き分けられました。続いてイザイの無伴奏ソナタの[千住真理子のCD](#)もかけられましたが、A氏もこれまでこんな音は出てなかったと言われていました。千住真理子は1月に、前橋汀子は4月に演奏を聴いてきたところですが、拙宅でもこのよう生々しい音は出ていません。静電容量型スピーカーへのパワーリベラメンテの効果はその他の機器に比べ、大きな効果があると言わざるをえません。

ひととおり予定したメニューが終わったところで、Y氏からエアープレイをやってみたいという提案があり、Y氏持参のエアープレイ用の Wireless mirroring ソフトである Airsquirrels の [Reflector](#) をインストールした PC と iPad で CD からリップングした AAC 音源を再生することになりました。そのために、ドライバーのインストールの必要な MYTEK DIGITAL 192-DSD の USB DAC としての使用をやめ、USB-201 を USB DDC として介在させ MYTEK DIGITAL 192-DSD を S/PDIF 入力に接続替えして、条件設定に時間を要しましたが、無事音出しをすることができました。AAC 音源の音質の限界はあるものの、気軽な BGM として聴くには便利性が好ましいことが分かりました。

なお、A氏邸恒例のオーディオノミナーもチアリーダーのS氏の指揮のもとに盛り上がり、Y氏ご持参のマッサンの秘蔵シングルモルトがヒートアップを加速しました。



### 3. まとめ

A氏邸のシステムの現状と課題が明確になり、パワーリベラメンテの効果が静電容量型スピーカーへの電源ケーブルとして使用した場合に驚くほどの効果が認められ、A氏のシステムの次のステップアップとして有力な候補となることが分かりました。

以上

